

目的 近年、食生活の多様化に伴い小児の食生活形態も変化していると思われる。そこで小児の食事摂取状況の実態を調べることを目的として調査を行った。

方法 昭和60年7月、10月、昭和61年2月および5月に、東京地区33名、筑波地区23名の1~5才児を対象として、食物摂取状況および生活時間調査を、平日の連続3日間、留置法で行った。

結果 7月調査において(回収率78.6%)1、2才児(東京地区 $25.5 \pm 6.3$ カ月令、筑波地区 $22.9 \pm 6.3$ カ月令)の栄養摂取量は、東京地区でエネルギー $1118 \pm 233$  kcal, タンパク質 $40.5 \pm 8.8$  g, 脂質 $40.8 \pm 9.9$  g, 筑波地区でエネルギー $1157 \pm 244$  kcal, タンパク質 $43.2 \pm 10.0$  g, 脂質 $40.9 \pm 11.6$  gで差はみられなかった。食物摂取調査において有意差がみられたものは、朝食エネルギー比(東京地区 $22.3 \pm 3.8\%$ , 筑波地区 $28.3 \pm 8.5\%$ ), 朝食脂質比(東京地区 $22.8 \pm 7.7\%$ , 筑波地区 $32.1 \pm 10.6\%$ ), 間食エネルギー比(東京地区 $28.4 \pm 11.3\%$ , 筑波地区 $17.7 \pm 10.1\%$ )であり、間食における果物、乳製品その他の飲料摂取量の合計は、東京地区 $229.4 \pm 92.1$  g, 筑波地区 $141.4 \pm 68.6$  gであった( $p < 0.05$ )。摂取食品数、市販食品数、既製食品数、菓子食品数は両地区間に差はなかった。